

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【札幌市】

1 実践テーマ	【 I・V 】
2 実施対象者	札幌市立簾舞小学校 第3・4学年 51名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	札幌オリンピックのことや、リュージュ・スケート競技での選手の努力、苦労について、オリンピックの話を聞いたり、興味をもったことやオリンピックの精神をさらに調べたりする活動を通して学ぶ。また、実際にリュージュやスケートを体験することで、これらの競技の楽しさを味わわせるとともに、スポーツをすることへの意欲の向上、心身の成長を図り生涯スポーツに資する。
5 取組内容	○指導計画〔総合的な学習の時間〕【15 時間扱い】 ① リュージュ（3 年 藤野リュージュ競技場）、スケート（4 年 真駒内セキスイハイムアイスアリーナ）の体験学習。（4 時間） ② オリンピアン講話・交流。（1 時間） ③ 平昌オリンピックの簾舞出身選手について、冬季オリンピックや冬のスポーツ競技について、パソコンや記録DVDを利用して調べ学習を行いまとめる。（8時間） ○取組の様子 【3 年生】 ① リュージュの体験学習 藤野リュージュ競技場にて、札幌リュージュ連盟の方々に御指導を受けリュージュの体験学習を行った。元リュージュ選手の高松さん、竹田さんにリュージュの運び方や乗り方を教わり、札幌オリンピックでも入賞されていた小林さん(旧姓大高さん)にも、乗り方やリュージュの背負い方を教わり、楽しく活動した。 ② リュージュ選手を学校に招き、競技やオリンピックについて話を聞き、交流。



	体験学習に続き、元リュージュ選手の高松さんを学校へ招き、競技の詳しい説明や競技場維持の大変さ等について話を伺った。また、子どもが疑問に感じたことを高松さんに質問して意欲的に交流した。 【4年生】 ① スケートの体験学習 (オリンピックによる実技指導) 真駒内セキスイハイムアイスアリーナにて、元オリンピック選手の鈴木靖さんを講師に招き、スケートの体験学習を行った。初心者がほとんどであったため、歩き方から丁寧に指導いただいた。スピードスケートでの滑走も見せてくださり、子どもはそのスピードに驚いていた。 ② スケート選手を招き、競技やオリンピックについての交流 体験学習に続き、元スピードスケート選手の鈴木さんを学校へお招きし、オリンピックの歴史や、スケート競技についてお話を伺った。また、子どもたちが疑問に感じたことを鈴木さんに質問するなど意欲的に交流していた。	  
6 主な成果	1972年に札幌でオリンピックが開催され、学校から近い藤野リュージュ競技場で競技が行われたことや、真駒内には当時競技場やオリンピック村があったことは、子どもたちにはあまり実感なかった。また、リュージュやスケートについても、初めて体験する子がほとんどであった。しかし、リュージュ連盟の方々やオリンピックの方の丁寧な指導により、子どもたちの当スポーツへの関心が高まった。また、実際に話を聞くことで、輝かしい活躍の部分だけではなく、そこに至るまでの多くの苦労や努力にも気付いた。	
7 実践において工夫した点	近隣にある冬季スポーツ施設を活用して、体験学習を取り入れる。また、ピアンの滑りを実際に見たり、話を聞いたりするなど、オリンピックとの交流を活動に組み込む。	
8 主な課題等	一昨年から取り組んでいるリュージュやスケートの体験学習では、競技自体を知らない子が多く、スケート学習では靴の履き方を知らない子がほとんどであった。平昌オリンピックの開催により、競技の認知度は高まってきているが、今後も学校として継続して取り組むことにより、スポーツに対する理解や意欲がさらに高まると考える。	
9 今後の取組について	本校では、次年度も総合的な学習に「雪」をテーマとして取り入れ、3～5年生のカリキュラムに「冬季オリンピック」の単元を組む。「雪」を通して、ふるさと札幌・簾舞への思いを強め、雪に親しみ、雪と共生しようとする心を育む。	